2022年度年報発刊にあたって

高等教育開発センター長　江川　　徹

2022年度の高等教育開発センター年報をお届けします。

冒頭が例年実施される「北里大学における学修等に関するアンケート」の結果報告と解析です。アンケートの回答方法は2021年度に紙媒体からwebへと変更となりましたので，今回はwebでの2年目となります。回答方法の変更に伴い,回収率が2020年度の73%から2021年度は49%に低下しました。対策として，2022年度は希望者に抽選でギフトカードを配るということをしましたが，回収率は前年と変わらず49%でした。改善策は今後の課題です。

教育支援システムの提供に関する活動報告も例年記載していますが，今回は，Moodleの提供が2023年末で終了することについての，経緯や今後の見通しに触れています。

新任教員研修は，今回もオンラインでの開催となりました。オンライン開催は2020年度からですので，3年連続となりましたが,2020年には実施できなかったグループディスカッション(FDワークショップ)を，2021年度同様にオンラインで実施できました。今回は特にその，オンラインによるグループディスカッションの実施方法についても，紙幅を割いてもらいました。

2022年度はセンター講演会を2件，いずれも本学教員を講師として開催しました。新型コロナウイルスの感染状況の改善により，2件とも対面で行うことができました。

1件目は「学生による授業アンケートを再考する－より良い活用に向けて－」と題した，一般教育部の前田崇准教授（高等教育開発センター員）による講演です。導入当初はかなりの違和感・抵抗感をもって迎えられた「学生による授業評価」も，今では完全に定着し，学生時代に評価する側だった世代の教員も増えています。しかしその一方，この制度の活用となると，いまだ共通の方法論が得られているとは言い難い状況です。講演ではこの制度の限界や批判についても触れられました。

2件目は「アフターコロナを見据えたオンライン授業に係る事例報告会」の演題で，薬学部の長光亨教授と一般教育部の増本三香講師に講演をお願いしました。「授業のオンライン化」は以前から進められていて，それがたまたまコロナ禍によって半ば強制的に促進された面があります。コロナ禍の収束が見えてきたこの時点で,改めて「『新型コロナウイルスへの緊急対応ではない』オンライン授業」への展望が求められます。お二人には，これまでの学部独自の取組や，教員によるオンライン教材作成の工夫などの事例報告をしていただきました。

1年前のこの稿では,「そもそも『コロナ以前』の状況に戻れるか否かが予測不能」と書きましたが，幸いなことに杞憂に終わりそうな見通しです。そうなると大学も「平常運転」に戻り，コロナ対応で先送りになっていた様々な問題に改めて向かうことになります。本センターも，センター本来の役割に戻る時が来たと言えるでしょう。

2023年10月

目　次

2022 年度年報発刊にあたって ―――― センター長　江川　　徹

2022 年度「北里大学における学修等に関するアンケート」調査結果 ― センター員　前田　　崇　3
　○基礎集計表（北里大学全体） ―――― 11

教育支援システムの提供に関する活動報告 ―――― センター員　高橋　　勇　88

講演会・研修会報告
　1－1．新任教員研修 ―――― 91
　　(1) プログラム概要
　　(2) 講演報告 1
　　(3) 講演報告 2
　　(4) ワークショップのグループワーク報告
　1－2．新任教員研修における FD ワークショップとオンラインによる実施 ―――― 136
　2. 北里大学高等教育開発センター講演会
　　「学生による授業アンケートを再考する－より良い活用に向けて－」 ―――― 145
　　(1) プログラム概要
　　(2) 開催結果
　　(3) 参加者アンケート結果
　3. 北里大学高等教育開発センター講演会
　　「アフターコロナを見据えたオンライン授業に係る事例報告会」 ―――― 146
　　(1) プログラム概要
　　(2) 開催結果
　　(3) 参加者アンケート結果

資　料
　北里大学高等教育開発センター会議記録
　高等教育開発センター予算執行記録
　北里大学高等教育開発センター構成員
　刊行物発行一覧
　北里大学高等教育開発センター設置規程